

令和4年11月18日

11月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調。共販所への入荷も昨年ほどではないが、秋季優良木展示会があるため順調である。間伐材、小径木の入荷は若干少な目となっている。10月から新材に変わり、スギ3m柱材は高値で17,880円/m³、4m中目材は17,000円/m³。ヒノキは3m柱材19,500円/m³、4m中目材24,000円/m³と上昇傾向にある。

群馬県では原木入荷が激減し、思うように原木を消費できない。特に4m中目材が少ない。売れ行きが悪く、在庫が溜まりつつある。下地材、貫、胴縁等はだぶついている。スギ柱、平角、母屋、桁の引き合いも減少傾向。プレカットと公共事業は受注できている。製品価格は落ち着きつつあり、全体的に現状維持。

2. 米材

米国内の原木価格は下落傾向にある。しかし出材が減少する冬場に近づき、産地製材工場では原木在庫の積み上げに入る時期であるため、底打ちは近い状況である。ウェアーハウザー社のスト中は同社のワシントン州の2私有土場への入荷、出荷はなく、在庫が動かず、輸出向け原木は一定量が蓄えられている。スト中に日本の米材製材最大手がカナダへ緊急配船を行ったことで、カナダ側の対日向けソートの在庫は払底状態にある。なお9/13に始まったストは10/28に終結した。米マツIS級並の11月積み対日輸出価格は前月比\$30下げの\$1,170/千SCRで妥結した模様。北米製材品価格は大幅調整後、10月に入り底を打ち、横ばい基調となっている。産地製材工場は減産を継続しており、新たにカナダ大手製材工場も6ヵ月の閉鎖を発表した。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(11/7)は\$491/M、10月頭に比べ4.1%の下落となっている。

9月原木入荷は131千m³で今年の最低水準、1~9月累計は1,775千m³(前年同期比1.0%減)。出荷は184千m³で大きく出超、1~9月累計は1,811千m³で前年同期比2.1%増。在庫は減少し170千m³となり、在庫率は0.82ヵ月で1ヵ月を下回った。輸入製材品の荷もたれ感と住宅着工の不調で国内挽き製材品の荷動きも緩慢である。国内製材各社は減産傾向である。東京木材埠頭の10月製品入荷は16千m³(前月比28.5%増)、出荷は16千m³(同11.3%増)、在

庫は 46 千 m^3 (同 1.4%減)。正角は荷動き悪いが、割物は通常の動きとなっている。

3. 南洋材

サラワク州の天候予測は難しいが、平年並みに推移。バージ移動に十分な水位を維持し、海上も穏やかである。出材の大半は小径木となっている。10月のサラワク積みはインド向けの2.8万 m^3 /1船、日本向け7,500 m^3 /1船のみ。インド向けはドル高と国内の在庫過多で低調、中国市場も不調である。PNG、ソロモンでは天候の問題なく出材も順調。サバ州では日本向け成約は依然ないが、中国、ベトナム向け輸出は確認された模様。11月予想の原木入荷は15千 m^3 、出荷は8千 m^3 、在庫13千 m^3 。製材品入荷は25千 m^3 。

4. 北洋材

産地側では一部在庫商品の出荷を急いでいるが、円安で値段が折り合っていない。日本側も入荷減により国内市況は最悪期を脱した感がある。アカマツ原板の本格交渉は冬伐り材の入荷(11月頃)を待って始まる。現地挽き完成品の一部サイズが品薄で新規仕入れを交渉しているが、現行の為替水準ではなかなか交渉が成立しない。現地挽きアカマツ野縁3mなど一部の良材製品に不足感が出ているが、4mは潤沢にある。国内製材工場ではDIY/一般ルートとも受注量は未だ回復せず、生産調整を行っている。鋼製野縁、スギ、LVL等にシェアを奪われている。国内流通在庫は減少しており、一部不足品もあるが、需要が回復しないため警戒感が強い。9月の製品入荷(東京+川崎)は12千 m^3 と9月以降減少に転じている。出荷は12千 m^3 と低調、在庫は67千 m^3 と減少し始めているが、減少幅は限定的。来年3月までは入荷が増えず、減少局面が続く見通しである。

5. 合板

合板メーカーの9月末原木在庫は内外産含め9ヵ月振りに減少。入荷が減少する一方で消費が増えたのが要因である。メーカーは原木不足の記憶が新しいだけに仕入れの安定で合板価格を維持したい考えである。

9月の国内合板生産量は25.2万 m^3 、うち針葉樹合板は24.6万 m^3 、出荷量は20.9万 m^3 で在庫量は14.9万 m^3 、うち構造用合板の在庫は12.7万 m^3 と前月より大幅に増加、2020年8月以来の高水準なった(在庫率0.7ヵ月)。針葉樹合板の価格は横ばいを維持しているが、原木供給がいつ変動するかわからず、原木以外のコスト(接着剤、電気代、部品交換代)が軒並み上昇しており、安易な値下げはできない状況。中国産針葉樹合板のJAS一時停止で国産合板に

引き合いが強まると見られたが、出荷は回復せず、メーカーは減産を継続する模様。輸入合板は割安な旧値在庫が比較的潤沢にあり、先物コストに合わせた値上げが通らない。9月の合板輸入量は20.1万m³(前月比2.7万m³減)で、特に中国産がピーク時に比べ大幅に減少。針葉樹合板は5,197m³(12mm換算26万枚)。インドネシアでは雨期入りで原木生産は低調。日本をはじめ各国からの発注が少なく、合板メーカー各社とも減産措置を取っている。マレーシアでは日本を中心に合板需要が大幅に減少しているため、需給は一時的に緩和されているが、雨期入りで原木伐採量が頭打ちとなり、需給は引き締まると見られる。

6. 構造用集成材

ラミナ、集成材の輸入量は10月がほぼピークで11月以降は落ち着く見通し。港倉庫でのデマレッジ(超過保管料金)の高騰もあり、各社引き取りを行うか否かの判断に迫られている。ラミナの第3・四半期契約価格はm³当たり€430前後で前回と比べ約€100の下落。第4・四半期契約も€320~350と下げであるが、現状の在庫量を考慮すると買いづらい状況。現在の入港価格は第3・四半期契約分の€500~550近辺で港着価格は78,000~83,000円/m³周辺。プレカット工場、問屋の在庫過多が続いており、国内メーカーの受注は穏やかである。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強く、高値材も無理して購入している。解体材の入荷は例年並みだが、今冬の集荷に各社警戒感が強い。製紙用の使用量は順調であるが、東南アジアからの広葉樹チップの水分過多問題で使用が制限され、各社国産チップの増集荷体制を継続している。燃料用は冬場に向けて使用量が増えるため各社警戒感が強い。製紙用、燃料用とも在庫の積み増しは例年以上に厳しい状況。

8. 市売問屋

記念市で買ってもらえるように荷物を集めているが、動きは悪い。スギ・ヒノキ構造材、造作材ともに荷動きが良くない。外材も同様にアカマツ製品の荷動きも悪い。価格が下げ気味のため、材木店は余分な物を買わない。どこでも売れている材は9.0cm角×3mと4mの並材である。

9. 小売

10月に入り秋需とはいかないが、販売店での見積や注文が増えてきている。木材製品の在庫が滞留し、価格が徐々に崩れ始めている。国産材製品では荷もたれ感の強いヒノキ製品に加え、スギ製品の荷動きも鈍化しており、価格は総じて弱含み。スギ、ヒノキ造作材も荷動きが悪く、仕入れも慎重である。外材製品は問屋、小売店ともに在庫が多く、補充は一部サイズのみで解消さ

れるには、しばらく時間がかかりそうである。荷もたれ感のある WW 集成管柱は値下がりが続く見通しで、スギ集成管柱との競争激化が予想される。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

注) 北洋製材品は東京・川崎

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↘
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗			
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↘
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↘
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→